

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成29年8月10日

【四半期会計期間】 第80期第1四半期(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

【会社名】 チヨダウーテ株式会社

【英訳名】 CHIYODA UTE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 平田晴久

【本店の所在の場所】 三重県四日市市住吉町15番2号
(本店事務取扱場所)三重県三重郡川越町高松928番地

【電話番号】 (059)364 - 5215〔代表〕

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 種田貴志

【最寄りの連絡場所】 三重県三重郡川越町高松928番地

【電話番号】 (059)364 - 5215〔代表〕

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 種田貴志

【縦覧に供する場所】 チヨダウーテ株式会社 東京支社
(東京都台東区寿三丁目14番11号)
チヨダウーテ株式会社 大阪支店
(大阪府大阪市西区南堀江一丁目1番14号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第79期 第1四半期 連結累計期間	第80期 第1四半期 連結累計期間	第79期
	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	6,935	7,493	30,861
経常利益又は経常損失() (百万円)	49	157	577
親会社株主に帰属する四半期純 損失()又は親会社株主に帰属 する当期純利益 (百万円)	76	158	429
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	99	97	506
純資産額 (百万円)	12,117	12,436	12,636
総資産額 (百万円)	35,103	36,037	35,164
1株当たり四半期純損失金額() 又は1株当たり当期純利益金額 (円)	4.41	9.19	24.79
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	34.5	34.5	35.9

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第79期第1四半期連結累計期間及び第80期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第79期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループにおいて営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用環境や企業収益の改善などにより、景気は緩やかな回復基調で推移しました。また世界経済も新興国の持ち直しが牽引する格好で順調に伸びてきたものの、米国をはじめとする政治リスクを抱え依然として不透明感は払拭できていない状況にあります。

住宅市場におきましては、好調だった貸家の伸びは頭打ちとなる一方、低金利で推移する住宅ローンや良好な雇用所得環境に支えられ、平成29年度第1四半期連結累計期間における新設住宅着工戸数は249千戸（前年同四半期比1.1%増）と横這いで推移しました。

石膏ボード業界におきましては、平成29年度第1四半期連結累計期間における製品出荷量は119百万㎡（前年同四半期比3.4%増）となりました。

当社グループにおきましては、石膏ボードを中心にケイ酸カルシウム板、鋼製下地材、断熱材等の拡販を通じ収益確保に取り組んでおりますが、住宅市場が堅調に推移しているタイミングで各工場における生産体制を見直し、一層の合理化・効率化対策を強力に推し進め強靱な企業基盤の確立を目指しております。当第1四半期は特にゴールデンウィーク時期に工場設備の改修更新を集中し実施することから、メンテナンス費用が一時期に発生し収益を押し下げる傾向にあるものの、今後の生産体制の改善に向けて積極的に推進したところであります。

この結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は74億93百万円（前年同四半期比8.0%増）、営業損失は1億70百万円（前年同四半期は営業損失84百万円）、経常損失は1億57百万円（前年同四半期は経常損失49百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億58百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失76百万円）となりました。

当社グループは単一セグメントであるため、セグメントの業績は記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

（資産）

資産合計は、360億37百万円（前連結会計年度末比8億72百万円増）となりました。

流動資産の減少（前連結会計年度末比2億68百万円減）は、受取手形及び売掛金の減少（前連結会計年度末比2億68百万円減）が主な要因であります。

固定資産の増加（前連結会計年度末比11億42百万円増）は、貝塚工場隣接地の取得に伴う土地の増加（前連結会計年度末比9億19百万円増）と建物及び構築物の増加（前連結会計年度末比2億3百万円増）が主な要因であります。

（負債）

負債合計は、236億円（前連結会計年度末比10億72百万円増）となりました。

流動負債の増加（前連結会計年度末比13億79百万円増）は、短期借入金の増加（前連結会計年度末比13億42百万円増）が主な要因であります。

固定負債の減少（前連結会計年度末比3億7百万円減）は、長期借入金の減少（前連結会計年度末比3億38百万円減）が主な要因であります。

(純資産)

純資産合計は、124億36百万円（前連結会計年度末比1億99百万円減）となりました。

これは、配当金の支払、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上に伴う利益剰余金の減少（前連結会計年度末比2億44百万円減）が主な要因であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は70百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,670,000	17,670,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は、100株 株であります。
計	17,670,000	17,670,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年6月30日		17,670,000		4,674,750		5,449,750

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 418,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,249,900	172,499	単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 1,500		
発行済株式総数	17,670,000		
総株主の議決権		172,499	

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) チヨダウーテ株式会社	三重県四日市市住吉町 15番2号	418,600		418,600	2.36
計		418,600		418,600	2.36

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,922,343	1,926,893
受取手形及び売掛金	5,237,955	4,969,786
商品及び製品	1,176,851	1,223,819
仕掛品	152,595	160,126
原材料及び貯蔵品	1,409,624	1,364,914
その他	577,916	558,028
貸倒引当金	69,483	63,855
流動資産合計	10,407,803	10,139,713
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,091,855	5,295,018
機械装置及び運搬具（純額）	4,430,793	4,435,475
土地	10,614,529	11,533,806
その他（純額）	1,446,175	1,446,063
有形固定資産合計	21,583,354	22,710,364
無形固定資産	264,866	246,657
投資その他の資産		
投資有価証券	1,497,704	1,558,834
その他	1,419,383	1,391,976
貸倒引当金	28,319	28,319
投資その他の資産合計	2,888,767	2,922,491
固定資産合計	24,736,988	25,879,513
繰延資産	19,538	17,894
資産合計	35,164,330	36,037,121

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,116,957	4,025,114
短期借入金	5,510,670	6,852,895
未払法人税等	78,522	37,941
賞与引当金	300,731	459,005
その他	2,465,072	2,476,680
流動負債合計	12,471,953	13,851,638
固定負債		
社債	1,727,200	1,727,200
長期借入金	4,855,144	4,516,991
役員退職慰労引当金	178,238	181,855
関係会社損失引当金	72,000	72,000
退職給付に係る負債	1,316,013	1,335,294
資産除去債務	132,625	133,331
負ののれん	6,341	6,012
持分法適用に伴う負債	15,604	45,267
その他	1,752,908	1,730,711
固定負債合計	10,056,075	9,748,664
負債合計	22,528,029	23,600,302
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,674,750	4,674,750
資本剰余金	5,475,135	5,473,962
利益剰余金	2,651,769	2,406,991
自己株式	196,193	196,193
株主資本合計	12,605,460	12,359,510
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	346,564	397,731
退職給付に係る調整累計額	338,768	328,800
その他の包括利益累計額合計	7,796	68,930
非支配株主持分	23,044	8,377
純資産合計	12,636,301	12,436,818
負債純資産合計	35,164,330	36,037,121

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	6,935,186	7,493,268
売上原価	4,481,838	4,965,922
売上総利益	2,453,348	2,527,346
販売費及び一般管理費	2,538,057	2,698,139
営業損失()	84,709	170,792
営業外収益		
受取利息	1,215	1,068
受取配当金	18,578	22,193
受取賃貸料	32,107	38,428
持分法による投資利益	5,997	
その他	28,099	32,798
営業外収益合計	85,998	94,488
営業外費用		
支払利息	29,842	27,753
持分法による投資損失		29,662
その他	20,503	23,544
営業外費用合計	50,345	80,960
経常損失()	49,056	157,265
特別利益		
固定資産売却益	75	
投資有価証券売却益		20,445
特別利益合計	75	20,445
特別損失		
固定資産除却損	2,947	1,349
投資有価証券評価損	1,010	
特別損失合計	3,957	1,349
税金等調整前四半期純損失()	52,938	138,168
法人税等	24,132	20,350
四半期純損失()	77,071	158,519
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	94	1
親会社株主に帰属する四半期純損失()	76,976	158,520

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純損失()	77,071	158,519
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29,880	51,166
退職給付に係る調整額	7,503	9,967
その他の包括利益合計	22,376	61,134
四半期包括利益	99,447	97,385
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	99,353	97,386
非支配株主に係る四半期包括利益	94	1

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高、受取手形裏書譲渡高及び債権流動化残高

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
受取手形割引高	109,140千円	85,226千円
受取手形裏書譲渡高	3,237千円	3,052千円
手形債権流動化残高	2,170,748千円	2,155,972千円
信託手形債権が取立不能等の場合においてのみ手形債権の買戻し義務が発生する特約となっております。		
電子記録債権流動化残高	79,461千円	76,080千円
電子記録債権が支払不能等の場合においてのみ電子記録債権の買戻し義務が発生する特約となっております。		

2 保証債務

次の関係会社のリース会社との契約について、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年6月30日)
(株)トクヤマ・チヨダジブサム	653,046千円	632,416千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上原価の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

当社グループの売上原価は、ボイラー設備の点検・修理及び定期修理を第1四半期連結累計期間に集中して行っており、メンテナンス費用の発生が他の四半期連結会計期間と比較して高くなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
減価償却費	399,596千円	385,395千円
負ののれんの償却額	328千円	328千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	87,182	5.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	86,257	5.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

当社グループの事業は、石膏ボードを中心とする建築資材の製造、販売を主に、これらに付帯する一切の事業を行っている単一事業であります。

したがって、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

当社グループの事業は、石膏ボードを中心とする建築資材の製造、販売を主に、これらに付帯する一切の事業を行っている単一事業であります。

したがって、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	4円41銭	9円19銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (千円)	76,976	158,520
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額(千円)	76,976	158,520
普通株式の期中平均株式数(株)	17,436,400	17,251,400

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8 月 9 日

チヨダウーテ株式会社

取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柴 田 和 範 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 新 田 泰 生 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているチヨダウーテ株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、チヨダウーテ株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。